

世界一の留学生市場・中国から優秀な人材を獲得するために

～中国留学仲介会社へのインタビュー～

北京事務所

はじめに

日本で学ぶ海外からの留学生のうち、中国人留学生はその6割を占めています(注1)。日本の大学や自治体が海外から留学生誘致を進めるにあたって、最も熱い視線を注いでいるのは、中国人留学生の動向ではないでしょうか。

中国は1978年に改革開放政策に転換して以来、国家の近代化のため、海外の技術やノウハウを取り入れようと、数多くの留学生を送り出してきました。統計によると、2013年の1年間で中国から海外に出た留学生は、41万3,900人に上ります(注2)。そして、そのうちの9割以上を私費留学生が占めています。また、留学先としては、アメリカの人气が高く、2013年には、約23万人が中国から留学しています(注3)。それに対して、2014年5月1日現在で日本へ留学する中国人は約8万人です(注1)。

では、なぜ多くの中国人留学生はアメリカを目指し、日本を選ばないのでしょうか。その背景を探るべく、中国の留学仲介業者(注4)「北京賽凱(Sakae)教育諮詢有限公司」を訪問し、和田正信さんにお話をうかがってきました。「北京賽凱(Sakae)教育諮詢有限公司」は2008年に設立され、アメリカ向け留学を専門に取り扱っています(一部日本向け留学の取り扱いもあり)。中国人留学生のナマの声と接する機会の多い和田さんのお話を通じて、「就職」「言葉の壁」「受け入れの仕組み」というキーワードから、中国人留学生に選ばれる日本になるために必要なことを考察します。

なぜ中国の若者たちは海外を目指すのか 一留学の先に求める「就職」

そもそも中国の若者たちは、自ら高い費用を払ってまで、なぜ海外へ留学するのでしょうか。和田さんは「中国の若者や親たちが留学の先に求めるのは『就職』」と断言します。現在、中国では深刻な就職難が問題になっています。統計によると、2013年の中国における大学卒業生の就職率はわずか35%、大学院生の就職率は26%に過ぎません(注5)。多くの若者たちは、中国国内での就職をより有利なものにすることや、海外の企業での就職、将来的な移民といった、人生の選択肢を広げることを夢見て海外を目指します。

和田さんは、「わたしたちの仕事は、学生が今まで学んできたこと、成績、これからさらに深めていきたい専攻の分野、将来就きたい職業の夢、働きたい場所、親から提供可能な資金——そういったことをマンツーマンで聞き取りながら、それなら〇〇大学のXX学部で△△を学べば□□のような職業に就くことが可能ですよ、ということをおアドバイスすることです。もちろん、はじめから志望がはっきりしている子は多くありません。留学を契機に、自分なりの人生設計を組み立てていく、その作業を一緒にお手伝いしています」と話します。「もし日本が本当に中国の優秀な留学生を数多く受け入れたいのなら、『学問』

を提供するだけでは足りません。『就職』を核にした形でのライフストーリーを提供しなければならないと思います。そのためには、大学だけではなく、地元の企業や自治体が提携した環境づくりが必要です」と提案します。

留学を阻む日本語の壁 一大学に求められる英語を使った授業の充実

また、中国人の留学先として日本の相対的地位が低い要因について、和田さんは「日本語が大きな障壁」と指摘します。中国では、小学校から英語教育が始まり、その質と量は日本以上とされています。中国人にとって、英語は誰もが学校の授業で習う身近な言語です。一方の日本語は、語学教育を受ける機会という点で、英語に大きく水をあけられているのが現状です。中国人が留学先を選ぶ際、より言葉の問題が小さい英語圏の国を選ぶことは、ごく自然な流れと言えます。和田さんは、「『日本語』というフィルターを通してしか学生を受けないとすると、かなり偏った選考になってしまいます。日本語を学んでいる学生は、全体のごくわずかです」と問題を提起します。「そもそも日本の大学はどういう学生を採りたいのでしょうか。今、日本の企業が求めているのは理工系の中国人学生と聞きます。日本の大学はどうすれば優秀な理工系の学生を呼び寄せられるか、議論せねばなりません。大学で英語を使った授業を充実させるなど、方策を考えることが必要です」と呼びかけます。

日本における留学生受け入れの仕組みとその課題

また、和田さんは、現在の日本における留学生受け入れの仕組みについて、「数を増やすことができても、優秀な人材を集めにくいのではないかと疑問を投げかけます。中国の学生が日本へ留学するには、さまざまな形態・方法がありますが、ここでは、私費で日本の大学学部留学に必要の資格と流れ（注6）を、留学先として人気国であるアメリカと対比して紹介します。

1) 語学学校を仲介する日本方式

中国の私費留学生が日本の大学学部に進学するには、①日本語能力試験（(財)日本国際教育支援協会と(独法)国際交流基金が主催する、日本語を母語としない人を対象に日本語能力を認定する検定試験）の2級以上、②日本留学試験（(独法)日本学生支援機構が主催する、日本の大学（学部・院）や専修学校に入学を希望する外国人留学生を対象とした共通の入学試験）の成績、③各学校の入学試験、という3つの試験が必要です。現在、日本留学試験は、中国大陸で受験できないため、受験のために海外に行く必要があります。また、中国の卒業時期は7月のため、日本の一般的な入学時期である4月まで空白期間が生じます。したがって、学部を受験する前に、ほとんどは日本語学校へ、まれに私立大学・短期大学の留学生別科に留学し、日本語を勉強しながら大学の情報収集・受験をするのが

一般的となっています。和田さんによれば、「個人で日本留学の申請を行うこともできますが、ほとんどは中国の留学仲介会社を通して申請します。すると仲介会社は、ほぼ例外なく、提携関係にある日本の語学学校を紹介します。そして語学学校を仲介して、留学先の学校を選ぶ人が多いです」といいます。

2) 大学が留学生を直接選抜するアメリカ方式

一方、アメリカ留学の場合は、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) の成績など、一定以上の語学能力が求められるほか、高校在学時の成績証明書や推薦状、エッセイなどの内容が審査されます。その審査を行うのは、各大学にある「アドミッション・オフィス」という組織で、個々の大学が自分たちの大学にふさわしい人物を直接選抜する仕組みとなっています。各大学の入学試験はありません。また、中国とアメリカの卒業時期は一致しているため、中国の高校を卒業後、そのままアメリカの大学に留学することができます。

日本とアメリカの違いについて、和田さんは、「アメリカの大学は中国の優秀な学生を獲得するため、自ら中国の学校や仲介業者をまわり、直接学生と接触しようとします。学生と面接し、学校の理念を説明した上で、学生の夢を聴きます。日本の大学の場合、中国の提携校や語学学校が紹介してくれるのを待っているように感じてしまいます。日本でも、大学が直接学生を選抜できるような仕組みができるのではないのでしょうか」と提案します。

世界一の留学生市場・中国から優秀な人材を獲得するために

中国の若者は海外に出たいという強い意欲を持っています。また、多くの親たちも、自分の子供に留学を経験させたいと希望しています。ある報告書(注7)では、中国の留学需要が、2025年に319万人に達するとしており、中国から海外を目指す若者は今度も増え続けると予測されています。

和田さんは、「もし、優秀な中国人学生を多く獲得したいならば、今までとは別の形のアプローチがあつていいと思います」といいます。「具体的には、『中国の就職難』は一つのキーワードです。たとえば、『就職できる留学』を掲げて、広く中国の学生に呼びかけてみてはどうでしょうか」と期待を込めます。

インタビューを通じて、中国という世界一の留学生市場から優秀な人材を獲得するために、日本が考えるべきことは少なくないのではないかと感じました。中国における留学生の動向については、継続して調査し、メルマガやクリアレポートでご報告していきます。

(北中所長補佐 仙台市派遣)

注1：日本学生支援機構（JASSO）が実施する[外国人留学生在籍状況調査](#)より

注2：中国国家统计局発表の数値より

注3：中国教育在線発表の数値より

注4：中国では、私費留学生の権益保護を目的に、留学斡旋を行う民間会社・公的機関の資格認定条件を規定して政府の管理下に置いている。2014年7月18日現在、資格認定を受けた留学仲介機関は、全国に452箇所、北京市に78箇所ある。数値データは[中国教育部HP](#)より。

注5：高等教育データ企業 Mycos が2013年6月9日に発表した「2013年中国大学生就職報告」より。数値は2013年4月10日時点までのもの。

注6：詳細及びそのほかのケースは、[在中国日本国大使館HP](#)を参照のこと。

注7：オーストラリアの留学広報及び研究機関である IDP Education Australia が2003年に発表した世界の留学需要の2025年までの将来予測報告書『Global Student Mobility 2025』より。

【参考】

- ・自治体国際化フォーラム2014年3月号『「中国留学発展報告」に見る中国人留学生事情』
- ・白土悟（2011）『現代中国の留学政策—国家発展戦略モデルの分析』

